

今回私は、傾聴ボランティアサークルごまちゃんのサークル活動の一環として秋田県藤里町で、傾聴ボランティアをさせていただきました。我々のサークルは毎年夏と冬の二回、サークル合宿という形を取り、藤里町に泊りがけでボランティアと課外学習をさせていただきました。

今回の研修では、藤里町社会福祉協議会のデイサービスやグループホームに伺っての傾聴、地元の高齢者バレーチーム「熟年バレー」とのバレーの親善試合を兼ねた傾聴、秋田県藤里町北部地区の方との交流会、そして空き時間には一人暮らし高齢者の方のお宅に伺って傾聴をさせていただいたり、現在藤里町で開催している映像のコンペティションイベントである FujisatoREC に参加させていただきました。また、その他には、藤里町の地域資源を知るという目的で、峨龍の滝、棚田、温泉などを見させていただいたり、藤里町社会福祉協議会が現在取り組んでいる事業の説明をしていただいたりしました。

今回で私は、4回目の藤里町での研修になったのですが、ここまでの研修で私は藤里町のことに関して、知ったような気になっていました。しかし、今回の研修では、藤里町は新たな様相を私たちに見せてくれました。そして、今回の研修で気づいた一番大切なことは、地域と関わる際には継続的にその変化を見ていくことが最も重要であるということです。

かつて住民に愛され、惜しまれながらも閉店した地元食堂「かもや食堂」は、今回訪れると、昨年からの改修が終わり、地域住民が集まれるサロン「かもや堂」としてリノベーションされていました。前回の冬の研修の時点では、改装工事中で、見学することはできなかったのですが、このサロンは一般公募によってえられた東京芸大の方のデザインとなっており、地域密着型の食堂はとて現代風なデザインのおしゃれな雰囲気のレストランへと変身を遂げていました。現在藤里町で開催しており、今回私たちが参加させていただいた FujisatoREC というイベントはかもや堂のデザインを提供した東京芸大の方と関連のある NPO の協力で立ち上がったイベントで、藤里町の中でとった動画をネットにアップし、その出来を競うコンペティションなのですが、その本拠地としてもかもや堂は使われています。そしてその FujisatoREC の一環として、10月2日には、藤里町で、「unkind」という白神山地を会場とするアウトドアフェスが開催され、著名な HipHop アーティストなどが参加することになっています。かもや堂のリノベーションプロジェクトは、いつの間にか、野外フェスプロジェクトへと発展していました。

この発展のプロセスは私たちにとって全く予想していなかったものでした。藤里町は高齢者率が非常に高く、若者を呼び込むことが課題となっている町ですが、人を呼び込むためには、まず、その門を開かねばなりません。しかし、地域社会は閉鎖的であるといわれますし、それは藤里も例外ではないと前回の夏の研修の際に社協の方がおっしゃっていました。それが今ではよそ者が野外フェスを開催するまでに至っているのです。いかにして、藤里町は町の門を開いたのでしょうか。

こうした展開のすべての始まりは、かもや堂のリノベーションのデザインを一般公募に

したことだと思います。もし一般公募にしなければ、東京芸大の方が藤里町に関与することではなく、その関与がなければ、FujisatoREC も、野外フェスもありえなかったでしょう。つまり、藤里町はリノベーションデザインの一般公募を通して町を開くことに成功したわけです。おそらく完全なよそ者が急にやってきて、FujisatoREC、unkind を開催しようとしても誰も耳を傾けないでしょう。東京芸大の方はかもや堂のリノベーションデザインを通して、「身内でもないけれどよそ者でない存在」になったのだらうと思います。「地域の人間は身内にはとても暖かいけど、よそ者には冷たい。それは藤里町も例外じゃない。でも、ごまちゃんにはみんな温かい。ごまちゃんはもうよそ者じゃないんだらうね、でも、身内というわけでもない。ごまちゃんは藤里町にとっても不思議な存在で、そういう存在が、町の閉鎖性を少しずつ壊していくんだと思う。このつながりは藤里にとってとっても大きいんだよ。」これは、去年の夏の研修の際、懇親会の中で社協の方がおっしゃった藤里の閉鎖的な雰囲気と我々ごまちゃんの藤里の中での位置づけに関する言及です。我々ごまちゃんが「身内でもないけれど、よそ者でない存在」であることを示しています。まちづくりをおこなうさい大切ななのは、ボランティアであったとしても、デザインの応募だったとしても、まず、参加者として地域に関与することなのだと思います。参加者として関与し、そこから「身内でもないけれど、よそ者でない存在」になる。それが地域で何をやるにしても前提となるのだと思います。

FujisatoREC は「動画投稿サイト×地域資源の再発見」、unkind は「白神山地という地域資源×Hiphop フェス」という地域資源と現在の流行や若者文化の融合を狙っており、理にかなったまちづくりのように思われます。これによって、以前よりも藤里町が若者から注目されることは間違いないと思われます。実際に SNS、音楽メディア誌を中心に、話題になっているようです。しかし、このイベントに関してどのくらい地域住民が理解を示しているのかは少し疑問が残ります。今回の独居訪問での傾聴では、リニューアルされたかもや堂がなんなのかよくわからないなど変化していく藤里に対する違和感や理解度の低さを示すような高齢者の声が聞かれました。実際、かもや堂のおしゃれな風貌は、田舎の原風景の中では明らかに浮いているように思われます。こうした変化に、地域住民の方々がどのように反応していくのか、個のイベントの成功不成功に限らず、長い目で見ていく必要があると感じました。

4 回目の訪問にして、三年目の藤里町。この短期間で急速な変化を見せていくこの藤里町を継続して見ていくことの重要性和その変化に付き添わせていただけることのありがたさを感じるとともに、藤里町の町としてのバイタリティの高さを感じた今回の研修でした。